

令和6年度  
学校評価シート

幼保連携型認定こども園 正和幼稚園

※令和7年3月14日14時～15時 正和幼稚園にて対面実施（保護者3名・地域住民・評議員・大学関係者）

1. 園の教育目標

1. それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じ取り大切にします。
2. 居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。
3. 社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。
4. 相手の思いを聴き入り、自分の想いも伝えます。
5. 試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

2024年度正和幼稚園の存在意義は、「こどもの学びをまんやかにそれぞれのやってみたいが実現・持続できる場の創造」です

◎多文化共生社会の空間づくり設計

- ①多様な文化を受容し、多角度からのアプローチを持続する
  - ・多様な文化の理解促進
- ②多様な食文化に触れる機会をつくる
  - ・多様な食文化理解促進
  - ・多文化共生ダイバーシティ食育の実践
- ③児童発達支援事業みんぐると施設をまたいだ組織内連携体制をつくる
  - ・みんぐるのルーム@町田自然幼稚園への送迎体制を確立
- ④多文化共生状態の実現
  - ・従前以上の加配児も溶け込んだ空間づくり

◎地域と共に居場所づくり

- ①地域の福祉ニーズに基づいた、子育て支援事業の充実
  - ・誰でも使える施設利用の機会を増やす
- ②アウトリーチ型子育て支援事業の内容充実
  - ・冒険遊び場等園外においても地域活動の関係人口を増やす
- ③地域活動の関係人口を増やす
  - ・山崎高校との連携を深め、活動内容を対外的に発信し、さらに関係人口を増やしていく
- ④伴走型子育て支援への貢献と一時保育利用の受け入れ機会を増やす
  - ・地域の子育てパートナーとして気軽に園の一時保育利用をしやすい仕組みを作る

◎園内環境・活動の高度化

- ①木工エリアのいとなみ化
  - ・木工エリアなどを活用したSTEAM教育の促進
- ②ピオトープの整備
  - ・園庭のピオトープを整備しより充実させ、生き物への関心を高める
- ③昔から伝わっている日本独自の文化、伝統の体験を通じた理解促進
  - ・地域・日本の伝統を深め、体験する

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1多文化共生社会の空間づくり設計	5	<p>①多文化社会の空間づくり設計 積極的な多様な文化の理解促進海外とのオンライン交流、世界、日本の郷土料理、蚕、訪問だけでなく来園していただくようなラマノとの交流がなされた。</p> <p>②みんぐるとの連携 2024年度、関連園である町田自然幼稚園に児童発達支援事業所ができたことにより、療育の為の送迎システムの確立がされた。</p> <p>③加配児も溶け込んだ空間づくり 保育者が意識しすぎている、子どもたちにとっても日常、無理に活動参加をしていない点が評価できる。 加配児という言葉も意識しないほどの溶け込みが感じられる。空間づくり設計では、誕生会を月ごとに行うのではなく、日ごとに行っている。 空間づくりを保育方法として変換している。空間づくりの次元を超えつつある。参加の仕組みなども配慮を施し、インクルーシブな保育に繋がっている。</p>
2地域と共に居場所づくり	5	<p>・ゆったりラウンジ活動の継続をしている。今年度は子育て支援事業Ⅲ型になったことで国からの支援も受けられるようになった。</p> <p>・園が地域と共創している「町田市山崎団地冒険あそび場」は2024年度から町田市からも定期型として認定され、町田市児童青年課の冒険遊び場ホームページにも記載されるようになった。また、この居場所づくりを進めることにより、近隣での関係人口が増えてきた。都立山崎高等学校の授業も実施しており、養成校の学生や山崎高校の学生と連携している。園の一時利用は断らないようにしている。一歳児の枠も多く取り入れている。一時預かりを行う上での予約もWeb申し込み等、予約しやすくなっている。中学生の職場体験も多く受け入れている印象を感じる。</p>
3園内環境・活動の高度化	4	<p>・木工エリアが完成。STEAM教育を取り入れている、次年度はさらに取り入れ、営み化していくのを期待している。木材を頂く機会を多く設けられるように、桜美林大学、URの土地の木材を使わせていただくなどの連携がとれてきていた。</p> <p>・保護者や地域の方々と協力しながら、園内田んぼを作って、年間を通してわらまで使うお米の一連の活動をしたり、いちご栽培の活動もして保護者もプランターづくりに参加していた。そのような活動に関われる仕組みもつくっていた。</p> <p>・保護者にアンケートをとった、お雑煮マップの印象を強く感じている。</p>

※結果について

5	十分達成されている
4	達成されている
3	取り組まれているが、 成果が十分ではない
2	取組が不十分である
1	取り組んでいない

<p>今後、園に期待すること</p>	<p>卒園される方も今後も園内と関わりたい希望があるので、卒園した方々の保護者のネットワークをつくってほしい。</p> <p>現在、未就園児用にはカレンダーがあるが、小学生以降のご家庭にも、毎月のカレンダーなどがあると良いのではないかな。</p> <p>関わろうとしている方もいればそうでない方もいる、そのような方をどう巻き込むのか。</p> <p>保育者の発想には驚かされる、自宅で保育ではなく、未就園児のうちからすぐに園に関わることが出来てよかった。今後も、園庭開放やこころ広場も積極的に参加したい。園児も進んでコミュニケーションに来てくれる。そのような特色をどのように伝えるかを工夫していく必要がある。</p> <p>保護者によっては保育の考えが違うため、保育者の想いに気づいていない方がいるので、そのような方々への発信力もつけていく。</p>
--------------------	---